

授業科目名	動物臨床検査学実習Ⅰ	科目コード	2301015		
開講クラス	動物看護師科	コース	動物看護師コース	学 年	1年
担当教員	猪野 亜里沙、川越 瞳				
	実務経験教員 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無) 実務経験内容 ペット栄養管理士 臨床栄養指導認定動物看護師1級 大学卒業後約1年間動物園で勤務 臨床栄養指導認定動物看護師1級の受験経験を活かし、また動物園での動物飼育、看護方法を授業に取り入れている				
開講時期	前期・ <input checked="" type="checkbox"/> 後期・通年・特別講義・その他		授業コマ数	48時間	
	<input checked="" type="checkbox"/> 必須 ・ 選 択 ・ 選択必須		単 位 数	1単位	
使 用 テキスト1	書 名	動物看護実習テキスト			
	著 者	動物看護師養成専修学校教科書作成委員会			
	出版社	株式会社 インターズー			
使 用 テキスト2	書 名	愛玩動物看護師の教科書 第4巻 臨床動物看護学			
	著 者	緑書房編集部 編			
	出版社	株式会社 緑書房			
参考図書	動物病院ナースのための臨床テクニック、犬と猫の臨床検査マスターブック VTの臨床検査ハンドブック、動物看護のための小動物内科学 動物病院検査技術ガイド				
授業形態	講義 ・ 演習 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 実習 ・ 実験 ・ その他 ()				
<授業の目的・目標> 動物病院で行われる臨床検査のうち、動物看護師が行うことが多い検体検査について学ぶ。各検査の正しい手順や使用する器具の取り扱いを学び、検査によって得られた結果が正常か異常かを瞬時に判断し、獣医師に報告できるようになることを目標とする。					
<授業の概要・授業方針> 尿、糞便、血液など、動物病院で行われる一般的な検体検査について、それぞれの検査の目的、手技、正常値について理論で説明した後、実際に実習し検査技術を習得させる。					
<成績基準・評価基準> 別紙②参照					
<使用問題集・注意事項>					
<授業時間外に必要な学修内容、関連科目、他> 動物臨床検査学Ⅰ、Ⅱ、動物臨床検査学実習Ⅱ					

授業科目名		動物臨床検査学実習Ⅰ
3h/回	授 業 内 容	備 考
1	臨床検査の考え方、検体の取り扱い	
2	血液検査（血液塗抹標本の作成）	
3	血液検査（血液塗抹標本の染色、スケッチ）	
4	血液検査（染色、白血球百分比）	
5	血液検査（総血球計算）	
6	血液検査（復習）	
7	骨髄検査（体位、穿刺部位、準備等）	
8	糞便検査（直接塗抹法、基本的な染色法）	
9	糞便検査（基本的な虫卵検査、スケッチ）	
10	糞便検査（復習）	
11	細胞診（細胞の採取、スケッチ、染色法）	
12	尿検査（物理的性状検査、採取法）	
13	尿検査（化学的性状検査）	
14	尿検査（尿沈渣）	
15	後期まとめ	
16	実技試験	

別紙②【「動物内科看護学実習Ⅰ」「動物臨床検査学実習Ⅰ」「動物外科看護学実習Ⅰ」「動物臨床看護学実習Ⅰ」学習成果指標】

評価要素項目		実習目標	学習成果評価基準			
			4	3	2	1
汎用的技能	自己評価の内容	実習を振り返り、身だしなみ、実習目標の達成、実習内容の理解、積極的な取り組みなどについて、客観的な自己評価を行っている。	自己評価が客観的で正しく行われており、担当教員による評価と相違ない。	自己評価は正しく行われているが、担当教員による評価とやや相違がある。	自己評価がやや主観的である。	実習後の自己評価はいつも同じで、担当教員による評価と大きく離れている。
職務上の技能	専門実践技能	実技試験60点	実技試験48点以上	実技試験42～47点	実技試験36～41点	実技試験35点以下
	対人技能	実習中の態度、身だしなみ	実習中に指導されたことは素直に実践し、態度・言動が適切である。常に実習にふさわしい身だしなみができている。	指導されたことは素直に実践している。	教員の指示どおりに行わない面があり、言動面も指導を要する。	教員の指導を素直に聞かず、反抗的な態度をとることがある。また、実習着を忘れたり、身だしなみも不適切である。
	分析技能	レポートの提出状況、内容	実習で実践した内容が細かく丁寧にまとめられており、今後の自分の課題が分析されたレポートである。毎回、遅れることなく提出している。	レポートは提出されているが、内容や今後の課題がやや不明瞭である。	期限に遅れることが多いが、提出はされている。	レポートをほとんど提出しない。
	管理・指導技能	積極性	様々なことに興味を持ち、意欲的、積極的に実習に取り組んでいる。また、わからない学生にも優しく教えることができる。	積極的に実習に取り組み、疑問に思ったことはすぐに質問解決につなげることができている。また、他の学生にも優しく教えることができる。	真面目に取り組んではいるが、積極的に動けない面がある。学生同士で教える際は、丁寧に説明できている。	やや受け身の態度で実習に取り組んでいる。他の学生への説明もやや不足している。
自律性と責任感	責任感、行動力	動物看護師になることを目標として、責任感をもって実習に取り組み、どのように自己研鑽に取り組むかを明確にしている。	言われたことは最後まで責任を持ってやり遂げ、動物看護師になることを目標として、自己の成長を意識しながら、自分で考え行動できている。	動物看護師になることを目標として、自分で考えて行動しようとする姿勢は見られる。	動物看護師になることを目標とはしているが、自分の考えで行動できないことがある。	自己の職業観が曖昧なため、責任感や自律性に欠けた行動が頻繁にみられる。
倫理観とプロ意識	職業倫理の理解	職業人としての社会的なマナーや言動を意識しながら行動できる。	動物看護の倫理綱領を意識しながら、実習における目的・目標を念頭に、社会的・職業的倫理に対して関心を持って取り組んでいる。	一般的な社会的・職業的倫理は理解できている。	社会人になるという意識はあるが、社会的・職業的倫理に対する関心が低いと、やや理解不足である。	社会人になるという意識が低く、社会的・職業的倫理に対する関心が低い。

※評価方法

上記7項目の基準の合計点数により、以下のように評価する。

合計28点満点中 23～28点が優、20～22点が良、17～19点が可、16点以下が不可

不可の場合は、著しく評価が低い項目に合わせた課題を与え、提出されたその内容が適切な場合は可の評価を与える。